

2026年2月28日

2025年度 北海道大学大黒島調査 概要報告書

1. 目的

海洋生態系に大きな影響を及ぼす重要な生物(動物プランクトン、オキアミ、イワシなど)を主食とする海鳥は、海洋生態系の変化や海洋汚染の度合いを計るものさしとして用いることができる。大黒島はウトウ、コシジロウミツバメ、ウミネコ、ウミウ、オオセグロカモメの重要な繁殖地であるが、長期的な個体数の変化や繁殖状況は十分に分かっていない。本年度におけるこれら海鳥の個体数や餌と繁殖状況の関係を明らかにし、過去のモニタリングデータと比較することで、海鳥の個体数変化への気候変動等の影響を調べる。

2. 期間

2025年7月2日～7月7日および8月25日～8月29日(計2回)

3. 調査内容

- ① **繁殖数センサス:**船上および地上から、各海鳥の個体数または巣数を数えた。地下に巣を作るウトウとコシジロウミツバメについては、植生マップを作成したのちに各植生区における巣穴密度と巣穴利用率をもとに巣数を推定した。
- ② **ウトウ餌調査:**夜間、ウトウの親鳥を捕獲し、餌採取、各身体部位の計測および体重測定を行った。捕獲に失敗し餌のみ回収したものを含め、計21個の餌サンプルを得た。
- ③ **ウトウ雛モニタリング:**巣穴にいるウトウの雛を計11羽捕獲し、翼の長さや体重を測定した。
- ④ **コシジロウミツバメ音響モニタリング:**コシジロウミツバメのコロニーに音声レコーダーを設置し、24時間連続で録音を行った。今後取得した音声データの音圧レベルと鳴き声の頻度について解析を行い、コロニーにおける活動パターンの推定を行う予定である。

4. 結果・考察

近年の調査結果と比較すると、それぞれの巣数はオオセグロカモメが横ばい、ウミウとウミネコが減少傾向にあった。いずれの種も繁殖期終盤であったことから、実際より少なく数えている可能性がある。同調査中にはオジロワシが複数確認され、ウミネコはオジロワシの捕食圧の影響で数が減少した可能性も考えられる。今回用いた手法ではウトウの巣穴数は91,256巣、コシジロウミツバメは656,815巣と推定され、これは2014年に植生面積を考慮せずに推定された巣穴数より増加していた(Okado 2019)。また、ウトウの餌はカタクチイワシが9割を占め、これは2018年から2021年に確認されたマイワシ優勢傾向と異なる結果であった。マイワシは冷水性でカタクチイワシは暖水性の魚であることから、周辺海域の水温変化の可能性が示唆された。ウトウ雛の翼の長さは平均123mm、体重は平均392gであり、巣立ち直前であったと考えられる。